# 自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム

## ―「三鷹を好きになる！」地域力向上への取組み―

遠山　尚恵

市民参加でまちづくり協議会「Machikoe（マチコエ）」の、安全なまちづくり部会 防犯・消費者保護グループでは、「市民全員！地域応援隊」の創設を主たる政策提言とした。安全面での「共助」で地域力を向上していくために、市民がまず「三鷹の良さ」を実感し、楽しみながら安全への理解を深めることが大切と考えた。そこで、グループメンバー一同で、「自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム」を企画実行した。観光バスをチャーターして三鷹市内を巡り（楽しもう！）、危険や異変に気付くセンサーをみがきつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）をテーマに、三鷹警察署ふれあいポリス協力の元、小学生が作成した地域安全マップを活用し、「三鷹を好きになる！」地域力向上プロジェクトに取り組んだ。安全なまちづくりを視点に楽しみながら危険な場所を巡り、参加者同士および運営者側と顔見知りになり、三鷹市をさらに良くする知恵や方法を享受した結果、参加市民の地域への参加意識が高まった。本ツーリズムは、市民がより三鷹市に愛着を持ち、市民が主体となる社会構築のための「地域応援隊」として活動することで三鷹市の安全なまちづくりに大いに寄与する礎となる取り組みとなった。

キーワード：まちづくり研究　まちづくり協議会　地域力　市民参加　安全　危険　地域安全マップ
ふれあいポリス　課題解決　価値創造

## 1　問題意識と企画の背景

### 1.1　「市民全員！地域応援隊」の創設に向けて

三鷹市では令和 3 年 7 月から令和 5 年 12 月まで、魅力と活力のある三鷹を目指し、市民と一緒に新たなる取り組みとして、市民参加でまちづくり協議会「Machikoe（マチコエ）」活動が行われた。筆者は「安全なまちづくり部会　防犯・消費者保護グループ」に活動のメンバーの一員として参加した。市民ボランティアである協議会メンバーが、政策テーマ部会やエリアマネジメント部会に所属し、様々な手法を用いてまちの声を聴き、部会でのディスカッションを通して、市民参加の実践によって多様な市民の思いやアイデアを聴き取っていった。誰一人取り残さない、持続可能で魅力と活力のある地域社会の実現に向け、市民とともに未来のまちのビジョンを描き、三鷹市基本構想の改正や第 5 次三鷹市基本計画の策定に向けた政策提案に結実させた[1)]。

「安全」の有難さは非日常の事態に陥ったときに実感するものである。「安全」と「危険」は表裏一体であり、日常生活では気が付きにくいが、いざ発生すると私たちの生命や身体、財産に影響を及ぼし、失いかねない脅威となる。自分や家族の「自助」だけでは限界があり、地域の力を結集して行う「共助」、国や地方自治体の支援からなる「公助」が不可欠である。「Machikoe（マチコエ）」活動を通じて、当グループでは「共助」である地域力向上のためには、市民がまずは、「三鷹の良さ」を実感し、楽しみながら安全への理解を深めることが大切だと考えた。

そこで、市へは以下の政策提案を行った。

**1．「市民全員！地域応援隊」の創設**

・市民が高齢者や障がい者、子どもを見守り、犯罪など近所や日常での異変に気付いた際に市や関係先に通知できる「市民全員！地域応援隊」の仕組みを作る。

・市民ボランティアが異変トリアージを判断できるよう研修を受講し、市民から寄せられる情報の優先順位を付け、市と連携をとることを考えている。ルールに基づいた運用を行う。これにより、市の負担軽減が図れ、市民の活動は地域ポイントと連動させる。

・市民と市民、市民と関係機関との顔がみえる関係性を作ることを目標とする。

・市内の事業者による見守り協力体制を拡張する。

**2．情報アクセスの改善**

・自分に必要な情報が得られる仕組みを作る。

・適切な相談窓口や対応方法など、ワンストップでアクセスできる仕組みにする。

・ICT 先端技術を採用する。

**3．市民と事業者に向けた防犯教育・消費者教育の実施**

・市民全世代に向けて、事業者をも対象とする、防犯・消費者教育を実施する。市民向けには、自由な時間・場所でオンデマンド受講できるコンテンツを構築し、受講と市が現在試行運用中の地域ポイントを連動させる。

・事業者向けにはコンプライアンス研修を実施し、受講した事業者には三鷹市が認定する。マークを授けると同時に悪質事業者対策として「訪問販売業者登録制」を採用する。

**4．社会弱者の犯罪や消費者被害に対し、生活支援を含めた支援体制を構築**

・犯罪や消費者被害を一過性のものととらえず、生活全般を含めた支援体制をつくる。

・犯罪抑止や消費者保護の視点から、市民宅の電話機能や訪問時のインターフォン機能を拡充し、設置費用について市が一部補助支援を行うことを要望する。

上記、政策提案は三鷹市の基本計画において、1 と 2 の項目については「計画への反映は難しいが引き続き事業手法を検討する」との評価だった。3 と 4 の項目については、「基本計画への反映を検討する」との評価をいただいた。

行政が及ばないところは、市民が補っていけばよい。市民が安全と表裏にある身近な危険を発見し、考え、問題点や課題を共有する。市民同士が触れ合い、「三鷹を好きになる！」取り組みから、市民が日常生活のなかで危険や異変に気付くアンテナやセンサーを持ち、行政の関連部署へ報告できるような市民社会の育成・構築を図ること、市民による地域力の向上を図ることを目的とし、「自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム」を企画し、三鷹市から資金の補助をいただいて、2023 年 12 月 13 日に実施した。

# 2　「安全ツーリズム」の企画

## 2.1　全体像

身近に存在する「危険」から「安全」を考えることをテーマに掲げた。深刻なテーマではあるが、楽しんで学ばないと身につかない、ひいては集客にもつながらないため、三鷹市内を観光バスをチャーターして巡り（楽しもう！）、危険や異変に気付くセンサーをみがきつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）をテーマに掲げ企画した。

専門家との対話や講義から学ぶため、警視庁三鷹警察署の「ふれあいポリス」神津警官に講義の出講や巡りスポットへの同行、およびそのスポットで危険性や安全面で注意すべきことのショート講話を依頼した。三鷹市内の魅力ある場所を訪ね、各所の小学生が作成した「地域安全マップ」を活用し、小学生が危険と思う場所を参加者同士で確認ができるとよいと考えた。楽しみながら視点を変えつつ、改善点を発見する。最後にどうすればもっと良い三鷹をつくれるかを参加者で話し合い、気づきを共有し、考え、市民同士の絆を作り深めるワークショップを実施することにした。

### 2.1.1　「ふれあいポリス」とは

経験豊富な警察官が、「犯罪の起きにくい社会づくり」の実現に向けて、「安全・安心まちづくり」に向けた自治体との連携、地域住民との連携強化、子供や高齢者等の身近で発生する犯罪及び交通事故防止、震災対策などの啓発活動等を重点に、警察と地域住民、自治体などの警察以外の行政機関を結ぶパイプ役として、地域の絆の再生と社会規範意識の向上を目的として活動している。[2)]

### 2.1.2　「地域安全マップ」とは

都内の各地域では、子供を犯罪から守るため、町会や自治会などの地域団体のほか、防犯ボランティア、学校、警察、行政等が連携して見守り活動を行っている。子供が安全に安心し得て生活をするためには、子供自身も犯罪に合わないための能力を身に付けることが必要である。一方で、犯罪の機会さえ奪ってしまえば、犯罪を実行できないという考えがある。「(誰もが）入りやすい場所」、「(誰からも）見えにくい場所」をキーワードに、実際に地域を歩いて犯罪の起こりやすい場所を確認しながら「地域安全マップ」を作成することにより、作成した小学生自身の被害防止能力が高まるという効果がある。

安全な場所と危険な場所を判断する。通学路のような日々通っている場所だけでなく、初めての場所でも、このキーワードを用いると安全と危険の区別ができるようになる。

その上で、犯罪が起こりやすい場所では、以下の「安全のための注意事項」として、

・犯罪が起こりやすい、危ない場所へは近づかない。
・やむを得ず、危ない場所を通らなければならないときは、保護者や友達など複数で行くようにする。
　一人では行かない。
・一緒に行く人はいないが、どうしても危ない場所を通らなければならないときには、周囲の様子に注意して通るようにする

以上を守り、犯罪に遭わないように指導がされている。[3)]

## 2.2　取組のポイント

(1) 三鷹市の魅力ある観光資源や研究施設を安全の視点で選定し、活用した。
(2) 参加者募集は、図書館、地域コミュニティセンターなどにチラシを配置し、市報で呼び掛けた。

(3) 「安全」と表裏の「危険」について取り上げるため、警視庁三鷹警察署「ふれあいポリス」に協力をいただいた。ふれあいポリスが同行し、参加者はふれあいポリスの講座や対話を通して、地域で生活する安心感を得られるようにした。
(4) 巡り場所の学区の小学生が作成した「地域安全マップ」を参照し、マップに記載された市内の危険箇所を参加者と確認し合った。
(5) ツーリズムではバス移動ではあるが、現地は徒歩で巡るため不測の事態に備えて、行事保険に加入した。また、事前に事務局（運営メンバー）でコースの下見を行った。実施当日は、一行の前後にスタッフを配置し、安全遂行に配慮した。
(6) 初対面の参加者同士がコミュニケーションをとれることを重視した。
(7) 昼食の弁当は市内の社会福祉法人が運営するサービスを利用した（希望者のみ）。

## 3　「自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム」の実施

### 3.1　実施内容（ツーリズム・講座・ワークショップ）

日　時：2023 年 12 月 13 日（水）9 時～16 時 30 分
参加者：17 名（運営側 5 名を含む）
巡り場所：三鷹駅北口集合

↓

国立天文台（4D2U シアター）　＊地域安全マップ　添付資料①[4)]

三鷹市大沢にある日本の天文学の中核を担う研究機関。大学共同利用機関として、大規模な天文観測・研究施設を全国の研究者に提供するとともに、天文学研究と天文観測機器の開発を広く推進している。4D2U シアターで専門家の講義を受講する。

使用した観光バス

＜危険チェック＞
天文観測のため周囲地域の外灯が少なく、「星のまち」の対照として、夜間は暗い地域との危険性を確認した。

↓

大沢の里　＊地域安全マップ　添付資料①

三鷹市大沢。豊かな自然環境で野川や武蔵野の雑木林を有する国分寺崖線の緑、水車、湿生花園がある。初夏には蛍がとぶ。わさび栽培にも着手されている。

＜危険チェック＞
野川氾濫時の避難場所が高台にあり、川を通過しなければ避難できない住民も出てくる。避難経路について地域安全マップで確認をした。

↓

さんさん館　＊地域安全マップ　添付資料②[5)]

（昼食：希望者のみ。「社会福祉法人むうぷ」へ弁当を注文した）

＜ふれあいポリス講座＞
三鷹市の犯罪件数や内容について説明
特殊詐欺でのキャッシュカードを騙し取られる手口を実演

「こども１１０番の家[6)]」の登録について、更新制度がない現状の問題と課題　など

↓

井の頭公園　弁天池～西園　＊地域安全マップ　添付資料③[7)]

三鷹市井の頭。動物園の前でバスを下車。折しもリス館で殺虫剤によるリス死が確認されたことが話題になった。源泉であるお茶の水から弁天様を参り、西園へ。玉川上水では松本訓導碑[8)]に参り、過去の水難事故について確認をした。

バードウォッチングができる小鳥の森では鳥との共生共存の大切さを感じた。

＜ふれあいポリス講話＞

公園のある場所では性犯罪が多い傾向があるが、井の頭公園では見られないとのことだった。地域安全マップでは玉川上水の横道などは暗いので一人では歩かないよう注意指示があることを確認した。

↓

三鷹産業プラザ

＜ワークショップ実施＞

ツーリズムを通しての問題点や課題を共有し、三鷹をさらによくするためのワークショップを実施した。

### 3.2　取組の成果

ツーリズムを通して問題点や課題を共有し、三鷹をさらに良くする知恵や方法を享受するためワークショップにて、(1)もっと良くなると思ったところ、(2)危険だと思ったところ、(3)気づきをまちづくりに反映するには、以上3点の項目で意見を交換し、共有した。

以下、共有した意見を抜粋する。

(1) もっと良くなると思ったところ

・三鷹市内には沢山良いところがあるがPR不足。もっと宣伝が必要
・(ふれあいポリス講座より)「チラ見」が大切。「あいさつ」が大切
・道路歩道が狭い
・災害設備の充実

(2) 危険だと思ったところ

・水害の再認識ができた（野川、井の頭池）
・大沢は「星のまち」の対称として、夜は暗く街灯がない
・防犯カメラの設置場所がわからない
・道路が狭い
・段差が多い

(3) 気づきをまちづくりに反映するには

・あいさつ、コミュニケーションが大事
・知らない人を見過ごさない。怪しい人にはあいさつをする
・地域で防犯見回りをする場合、「腕章」の効果が高い

・地域で顔見知りを作る
・地域に興味のない人をどう巻き込んでいくかが課題
・行政との意見交換が大事。気が付いた点を通報する仕組みが、双方向にあるとよい
・一か所でわかる案内所があるとよい
・動画配信や SNS で分かりやすく発信する

その他、所轄警察署には「ふれあいポリス」がいることをもっとアピールするべきとの声も上がった。

井の頭公園西園での集合写真

### 3.3　取組からみえてきたもの

三鷹市の安全なまちづくりを視点に楽しみながら危険な場所を巡り、市民同士で問題点や課題を共有した。参加者同士および運営者側と顔見知りになり、三鷹市をさらに良くする知恵や方法を享受した結果、社会参画した（よりよい社会の形成に主体的にかかわった）ことによる参加者の満足度はアンケート結果からもかなり高かった。閉会後、参加者から継続的な開催への強い要望を多くいただき、足取り軽く笑顔で帰って行かれた。運営側も安全に企画を遂行でき、参加者から期待を超えた反響を頂戴したことから、大いなる充実感、達成感を得られた。

このツーリズムは、参加意識が生まれる仕組みを実感できるものとなった。加えて、「市民全員！地域応援隊」の創設に向けても、三鷹市民がより三鷹市に愛着を持ち、市民が主体となる社会構築のための「地域応援隊」として活動することで、三鷹市の安全なまちづくりに大いに寄与する礎となる取り組みとなった。

## 4　次年度以降の継続的な取組みのために

### 4.1　現状の課題

今回は三鷹の魅力あるスポットを選び、基本的なコース設定した。研究施設の団体参加の日程により平日開催に設定せざるを得ず、参加者は平日に時間がとれる中高年の層が厚かった。大学生や三鷹に転居して間もない人などの本来参加対象としていた層への参加働き掛けが今後の課題となった。

今回の企画は、参加者および、ふれあいポリスからも継続開催の要望をいただき、大好評で終了できた。今後の継続を見据えた展望としては、事務局（運営メンバー）のスタッフ人材を増強する必要があり、近隣大学の学生との連携をとることを検討したい。また、今回の参加者が「市民全員！地域応援隊」の初期メンバーとして活動していける企画を継続していきたい。

### 4.2　今後の展望

今回の実施時期は 12 月で、紅葉の美しい季節で温暖な天候に恵まれ気持ちよく歩くことができたが、今後の開催は、悪天候での遂行も考慮しておく必要性がある。今回巡ったスポット以外にも、三鷹市には素晴らしい観光資源や研究施設があり、複数のコースのプランニングが可能である。また、安全ツーリズムの内容も観光資源に頼らずとも、上下水道管やガス管の地下配管システムの仕組みなど生活インフラを知ることも安全と関連できる。また大学生との連携については、大学のサークルやゼミなどにアプローチして、市内の大学のキャンパスを学生ガイドで巡ったり、大学と地域力とを連携させる取り組みなどが考えられる。

また、安全ツーリズムは、小学生、中学生、高校生においても成長に応じた体験活動や地域探求に利用できる、全世代に通用するツーリズムである。市民自身が関わることで地域が良くなることが参加意識を高める。「改善点を発信→改善される→改善されたことが発信者へフィードバックされる→達成感が生まれ、参加意識が高まる」という好循環により地域力が向上していくことを実感できる企画をこれからも提案していきたい。

---

**プロフィール**

**遠山　尚恵**

三鷹市在住。三鷹まちづくり研究員。職業は、消費生活相談員、コンシューマーエイド（東京都消費者啓発員）、ファイナンシャル・プランナー（日本 FP 協会 CFP 認定者）。消費生活センターで消費者トラブルの相談を受け、訪問販売や電話勧誘販売による高齢者被害や、投資詐欺で散財し、高額な借金を背負う被害を目の当たりにし消費者教育や金銭教育の重要性を認識、消費行動から見直す消費者教育を実施している。消費者のリテラシー向上を図る一方で、訪問販売や電話勧誘販売に携わる事業者の法令順守に向けた活動や、勧誘を希望しない消費者を保護する法律策定など制度を見直す活動を行っている。三鷹市の市民参加でまちづくり協議会「Machikoe（マチコエ）」（令和 3 年 7 月―令和 5 年 12 月）では、「安全なまちづくり部会　防犯・消費者保護グループ」で活動した。

---